

第43回ぴあフィルムフェスティバル2021



会 期：2021年9月11日(土)～25日(土) オンライン配信は10月31日(日)まで
 会 場：国立映画アーカイブ
 主 催：(一社)PIFF/独国立映画アーカイブ/(公財)川喜多記念映画文化財団/(公財)ユニジャパン
 特別支援：(一社)日本映画製作者連盟
 後 援：(特非)映像産業振興機構/独国際交流基金/(協組)日本映画監督協会
 対 象：一般
 公式サイト URL：https://pff.jp/43rd/

総来場者数(参加数)：6,674人/前年比135%(リアル参加：3,703人/前年比133%、オンライン視聴：2,971人/前年比138%)
 プレス社数：新聞社：18/通信社：4/雑誌：5/WEB：231/ラジオ：5/テレビ：3

■開催内容

●コンペティション部門「PIFFアワード2021」

全国から応募された自主映画489本の中から選ばれた入選作品18本を各2回ずつ上映、さらに10月31日までオンライン配信も実施。映画祭の表彰式で、俳優の池松壮亮をはじめとする5名の最終審査員が選出したグランプリ、準グランプリ、審査員特別賞ほか各賞を発表、7作品が受賞した。

●ナワポン・タムロンラタナリット監督特集

1984年生まれの37歳にして、既に長編映画を7本発表しているタイの俊英ナワポン監督を特集。日本未公開の6作品を含む長編7本と短編作品19本のラインナップで、国際的に注目を浴びるデジタル世代の監督を紹介した。日本文化を愛することでも知られる監督だが、折からのコロナ禍で来日は不可能に。しかし、全作品に対するメッセージビデオを作成し、長編デビュー作『36のシーン』上映時にはバンコクからのオンライントークで観客の質疑応答に熱心に答えてくれた。



屋外看板

●森田芳光70祭

没後10周年を迎えた天才監督・森田芳光の魅力を、若い世代の監督たちが語りつくす上映&トーク企画を実施。「ときめきに死す」をはじめ森田監督の代表作4本の上映と、富永昌敬監督、沖田修一監督、松居大悟監督、石川慶監督、脚本家の向井康介らが熱いトークを繰り広げた。



受賞監督+最終審査員

●ブラック&ブラック

ピーター・バラカンのナビゲートによる恒例企画。今年はジェームズ・ブラウンのドキュメンタリーに加え、ミカ・カウリスマキ監督の未公開映画も上映。

●PIFFスペシャル映画講座

作品論を飛び越えた新鮮な視点で、新旧映画を語り、再発見するスペシャル企画。勅使河原宏監督の『砂の女』『他人の顔』、加藤泰監督の『骨までしゃぶる』といった名作を、「音」や「ジェンダー」といった切り口から語るプログラムや、海外とのコラボによる映画製作の体験談、大学の卒業制作の現場に関する考察など、豪華な8人のゲストによるユニークな映画講座が行われた。



入選監督記念撮影

その他、工藤梨穂監督による第27回PIFFスカラシップ作品『裸足で鳴らしてみせろ』の完成披露、熊坂出監督の最新作『プリテンダーズ』のプレミア上映、スペインのフィルマドリッド映画祭で最高賞を受賞した『おばけ』の凱旋上映を行った。

■2021年度の新規取り組みとその成果・特色など

コロナ禍で移動が困難になった国内外のゲストとZoomを活用してオンライン・トークショーを実施した。観客との質疑応答も活発に行うことができ、コロナ禍にかかわらず今後も活用できる手法であることを認識した。



ゲスト：ナワポン監督(オンライン)

同様に、感染予防のために質疑応答のマイク回しを取り止めてQRコードとスマホを活用したQ&Aを実施した。こちらも、質問の数が増え、内容も充実するなど、むしろコミュニケーションが活発化するという嬉しい結果となった。

■他イベントや非コンテンツ企業との連携事例などの実施事例、件数・成果

- ①「第34回東京国際映画祭」との提携企画として、「PIFFアワード2021」グランプリ作品『ばちらめん』を上映し、監督との質疑応答を実施した。
- ②スカパーJSATが運営する衛星放送「BSスカパー！」にて、2021年12月にグランプリ受賞作『ばちらめん』をはじめとする「PIFFアワード2021」受賞作5本を放送した。



ゲスト：工藤梨穂と出演者